

論 文 目 録

整理番号		氏 名	滋 賀 太 郎
学位論文			
Macular マウスのコラーゲンに関する研究			
日本口腔外科学会誌 第 3 3 巻第 3 号 1 2 0 頁 ~ 1 5 0 頁			
平成 年 月発行			
著者名：滋賀太郎、小野一郎、茂木二郎、西村三郎			
参考論文			
1 小児にみられた眼窩底骨折の 3 実験例			
日本口腔外科学会誌 第 2 9 巻第 6 号 1 0 4 頁 ~ 1 2 0 頁			
平成 年 月発行			
著者名：水野一郎、中村次郎、中島 卓、滋賀太郎			
2 T L 1 0 2 M による口内炎の治療成績 Placebo との比較			
日本歯科評論 第 4 8 8 号 2 5 7 頁 ~ 2 6 0 頁			
平成 年 月発行予定			
著者名：松田晃一、中村次郎、中島 卓、滋賀太郎			

履 歴 書

整理番号		本 籍 地	滋 賀 都・道・府・ <u>県</u>
(ふりがな) 氏 名	滋 賀 太 郎 昭和 年 月 日生 <u>男</u> ・女		
現 住 所	滋賀県大津市 町 丁目 番 号 マンション 号室		
学 歴	昭和 年 4 月 1 日 滋賀医科大学医学部入学 昭和 年 3 月 日 同上卒業 昭和 年 4 月 1 日 滋賀医科大学大学院医学系研究科入学 昭和 年 月 日 同上退学		
研 究 歴	平成 年 月 日 滋賀医科大学医学部附属病院医員（研修医）と て 科において研究に従事 平成 年 月 日 同上修了 平成 年 月 日 滋賀医科大学医学部助手として 講座において 研究に従事 平成 年 月 日 同上退職 平成 年 月 日 滋賀医科大学医学部（ 講座）研究生 平成 年 月 日 同上満了		
職 歴	平成 年 月 日 滋賀医科大学医学部附属病院医員（研修医）と して 科に勤務 平成 年 月 日 同上退職 平成 年 月 日 滋賀医科大学医学部助手として 講座に勤務 平成 年 月 日 同上退職 平成 年 月 日 病院医師として 科に勤務 現在に至る		
免許・資格等	昭和 年 月 日 医師免許証下付（第 1 2 3 4 号）		
賞 罰	な し		
以上のとおり相違ありません。 平成 年 月 日			
滋 賀 太 郎 (この氏名のみ自署すること。)			

自己担当部分についての報告書

申請者

【着 想】

申請者は滋賀医科大学 講座 教授より、「食道癌の遺伝子異常」という研究課題を受けた。申請者は数多く報告されている癌遺伝子のなかで cyclin D1 に着目し、食道癌における cyclin D1 遺伝子の増幅、cyclin D1 mRNA および蛋白の発現、局在、cyclin D1 蛋白過剰発現の臨床的意義を検討した。

【方法論】

滋賀医科大学 講座 教授および 助教授より切除され、臨床病理診断に供された食道癌組織は、滋賀医科大学 講座 教授に診断していただき、臨床病理学的検討のデータとした。遺伝子の増幅 (サザンプロット法)、mRNA の発現 (in situ hybridization 法) は 教授の、免疫組織化学染色は滋賀医科大学 講座 助手の指導を受けた。

【研究の施行】

すべての研究手技、データの整理は申請者が行った。

【論文の作成】

教授より表現方法、考察の助言を受けながら、申請者が論文の執筆、図表の作成を行った。論文は 教授および 助教授の校閲を受けた。

(記載例)

【共著者が 名に至った理由】

実験的研究が広範囲かつ専門的であること、材料に手術切除材料を使用していることにより、滋賀医科大学 講座 教授、 助教授、 助手、滋賀医科大学 講座 教授の多大なる指導、助言を頂いたため、共著者が 名に至った次第である。

上記の【共著者が 名に至った理由】の記載については、共著者が本人を含めて4名を超えない場合は不要です。